



弟子の条件

シリーズ～神の国～

2013/4/28

ルカによる福音書14章25～33節

大勢の群衆が一緒について来たが、イエスは振り向いて言われた。「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。

あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて、『あの人は建て始めたが、完成することはできなかつた』と言うだろう。

また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。もしできないと分かれば、敵がまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めるだろう。

だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのただれ一人としてわたしの弟子ではありえない。



イエス様ツアーに参加するには

- 「神の国」とはイエス様と共に旅をすること
 - 農耕民族的思考を捨て、遊牧民(ノマド)になろう!
- イエス様ツアーに参加するには、家族を憎み、自分の命さえ憎まなければならない
 - 「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。」
- 「憎む」とは「**とらわれない**」「**執着しない**」こと
 - 「愛さない」「大切にしない」ということではない!

むしろ十字架を背負って

- 家族や自分の命にとらわれないことは簡単ではなく、むしろ「十字架を背負う」ことに等しい
 - 「自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。」
- ツアーガイドであるイエス様が十字架を背負っておられるのだから、参加者が背負うのは当然
- 私たちの代わりに、イエス様が責任を持ってケアして下さい
 - 「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。」〈ペトロの手紙一5:7〉



不思議な2つの比喻

○塔と建てる前には建築費を計算する

- 「あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて、『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。」

○敵と戦う前には兵力を比較する

- 「また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。もしできないと分かれば、敵がまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めるだろう。」



不思議な2つの比喻

○塔と建てる前には建築費を計算する

- 「あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて、『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。」

○敵と戦う前には兵力を比較する

- 「また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。もしできないと分かれば、敵がまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めるだろう。」

何事も十分に準備して始める

イエス様ツアーの準備は？

- 旅行に行くときには十分に準備する
 - 旅慣れていない人程荷物が多い
- 多くのものを背負ってはイエス様ツアーの邪魔になる
 - 家族, お金, 自分の体, 命・・・, いろいろ背負っていては自由にどこにでも行けない
- 必要なものはイエス様が備えて下さる
 - 「わたしたちに必要な糧を今日与えてください。」
 - ただ十字架だけを背負っていく



登れる
かな？



「主の山に、
備えあり」